

2学期始業式 校長講話

皆さん、おはようございます。校長の石丸です。44 日間の夏休みはいかがでしたか？ 教育課程から開放される夏休みは、皆さんにとって貴重な毎日となったことでしょう。受験勉強や学習に力を注いだ人、部活動で技術と体力の向上に取り組んだ人、家族と旅行に出かけた人など、それぞれの夏休みを満喫したことと思います。

夏休み期間中、高校生に関する驚くようなニュースがいくつかありました。インターハイ陸上競技男子 100m では石川県星稜高校の清水空跳選手が 16 歳ながら 10 秒 00 という驚異的なタイムで優勝しました。これは U18 の世界新記録であり、18 歳以下では人類史上最速の記録となります。高校生以下の国際数学オリンピックでは、長野県松本深志高校の狩野慧志さんが満点を取り、世界 1 位を成し遂げました。狩野さんは幼い頃から数字に興味をもち、2 歳で一桁の足し算、幼稚園で掛け算、小学校 5 年生で高 3 レベルの問題が解け、中学 1 年で数学検定 1 級に合格したそうです。

そしてこの夏、メディアを最も賑わしたのは、甲子園で活躍した県立岐阜商業の横山温大選手ではないでしょうか。横山選手は先天的に左手の指がなく、幼い頃からバッティングも守備も右腕一本でのプレーを余儀なくされました。そんなハンディを抱えながらもこの夏の甲子園では、素晴らしいプレーを披露し全国の人々に感動と勇気を届けました。直近 10 試合の打率は.429、甲子園でも.313 の打率だそうです。県立岐阜商業は、元中日ドラゴンズの故高木守道監督や西武ライオンズと中日ドラゴンズで活躍した和田一浩選手を輩出した学校で、レギュラー争いも苛烈を極める野球の名門校です。そのチーム内で、レギュラーを獲得することだけでも大変なことですが、甲子園の舞台で走攻守に渡り活躍する姿と、その裏にある彼の努力と苦労も相重なり、彼のプレーは多くの人々の共感を呼ぶところとなりました。彼の活躍がある中、タイブレークにもつれ込んだ準々決勝の対横浜高校戦、準決勝の日大三高戦は高校野球史に残る戦いであったと絶賛されています。

横山選手の御両親は、「子供に野球をやらせたい」という思いで彼を授かりましたが、その左手には指がありませんでした。野球ができないどころか日常生活にも支障をきたすこの状況について、御両親は相当なショックを受けたそうです。「小学校に行ったら、みんなと同じようになるんだよね」と何度も尋ねる横山選手に対し、御両親は「野球ができなくてごめんね」と申し訳ない気持ちになったと語っていらっしゃいます。そんな中、御両親は、「いつまでもできないことを訴えていてもだめだ、できないことを教えるのではなくできる方法を探そう」と気持ちを切り替えて彼を育てていきます。横山選手が中学になると送球の練習のため、グローブを右手から外し左脇にかかえるという動作を 1 秒以内を目標に何度も練習したそうです。またバッティングは、ほぼ右手一本しか使えないため力強い打球が打てませんでした。そのため、高校生になってダンベルやチューブを使って筋力トレーニングに励み、右手は左手の倍くらいの太さとなりました。その結果、スイングスピードが 10 キロほど速くなり、力強い打球が打てるようになりました。こうして甲子園での活躍につながっていくわけですが、彼をここまで育てたものは、親の愛情と彼自身の「ハンディを抱えていても関係なくやれる」という強い信念があったからだと思います。

横山選手の努力について、監督は「横山の努力は並大抵ではない。みんなが彼の練習姿から学び、互いに励まし合う雰囲気生まれた」と語っており、またチームメイトも「どうしても諦めそうになるとき、横山の姿を思い出す。勇気ってこういうことなんだと思う」と話しています。公立高校が私学の強豪 2 校とタイブレークまでもつれ込んだゲーム展開も相まって、一人の高校生の活躍は全国の人々に温かな感動を届けてくれました。ネット上では、「すべてにおいて素晴らしい。こんな高校生がいること

に、何だか希望が湧いてきます。心から称賛します。」「努力の人ってこういう人を指すんだと思う。最高の青春、羨ましいです。」と横山選手への称賛の声であふれています。

さて、本校の生徒も負けてはいません。

部活動では、水泳部の生徒1名が夏のインターハイ全国大会出場、女子バスケットボール部が夏季大会でブロック優勝、ソフトボール部が公立選手権大会で準優勝など、個人団体で多数活躍をしています。

また夏休み期間中、施設見学会、今年度から実施している中学生対象の部活動体験「保谷カーニバル」、男子バスケットボール部主催の部活動体験「むらさき杯」、新宿 NS ビルで開催された都立学校 EXPO など、中学生やその保護者が保谷高校を訪れる機会が何日もありました。保谷カーニバルでは、大きな声を発しながら中学生と全力でプレーする姿、保護者に快適に見学してもらうための保護者席の設置、熱中症への配慮、そして、むらさき杯では、参加 16 校への控室の案内を始めとしたきめ細やかな準備と中学生対応等、私は「ここまでできるのか」と感服しました。

都立高校 EXPO では本校から2学年2名が参加し、保谷高校ブースで中学生やその保護者に本校について生徒目線で解説してくれました。本校のブースは一日通して、中学生とその保護者が切れ目なく集まりましたが、教員と協力しながらの概要説明や個別相談は簡潔でわかりやすく、多く聴衆に伝わるものとなりました。

そして数日にわたって実施された施設見学会は、圧巻の一言に尽きます。生徒会や部活動から多くの生徒が駆け付け、正門から昇降口、廊下、受付、会議室、校舎案内と至る所で生徒が活躍するとともに、教職員においても担当の教務部だけではなく、生活指導部、進路部、学年の先生等、様々な分掌から駆け付けてくれました。自転車置き場、QR コードでの受付、学校パンフレット、掲示物、デジタルサイネージ、そして扇風機を何台もセッティングする周到な準備は、私がこれまで経験したどの学校よりも素晴らしいものでした。私は、この夏休み期間において、保谷高校の真骨頂、底力を見たと確信しています。生徒の皆さん、そして教職員の皆様には、心より感謝申し上げます。

さて、2 学期のスタートです。文化祭まで残す所 1 週間。時間に猶予はありませんが、来校する方々に満足していただけるよう、できる限りの準備をしていきましょう。また、3 年生の皆さんは、進路先への出願が始まりますね。自身が何を学びたいのか、どんなスキルを身に付けたいのか、将来、自分の能力をどうやって社会に還元したいのかを考え、進路先を決定してください。そしてその進路実現のためにも、寸暇を惜しまず学業に励んでください。2 年生の皆さんは修学旅行が目前となりました。初めて海外に行く人も多くいるかと思います。しっかり準備をして旅行に臨んでください。1 年生は、高校生活に慣れてきた頃かと思います。2 学年では文系理系のコースに分かれますので、自分の適性に合わせ、将来を見越した選択してほしいと思います。そして引き続き学習、部活動に力を入れ、自身を磨いてください。

最後に、皆さんに改めてのお願いです。1 学期の終業式で私からお話しました「親しき中にも礼儀あり」、つまりどんな身近で仲のよい友達でも、最低限の敬意をもって接するということを決して忘れないでください。皆さんの2 学期が幸福に満ちた、充実した2 学期になることを願っています。

都立保谷高等学校長 石丸 昌延